

七X 414

23
3
43

山内養順
同庫之丞 著

產婆楷梯問答 全

明治十八年五月

(非賣品)

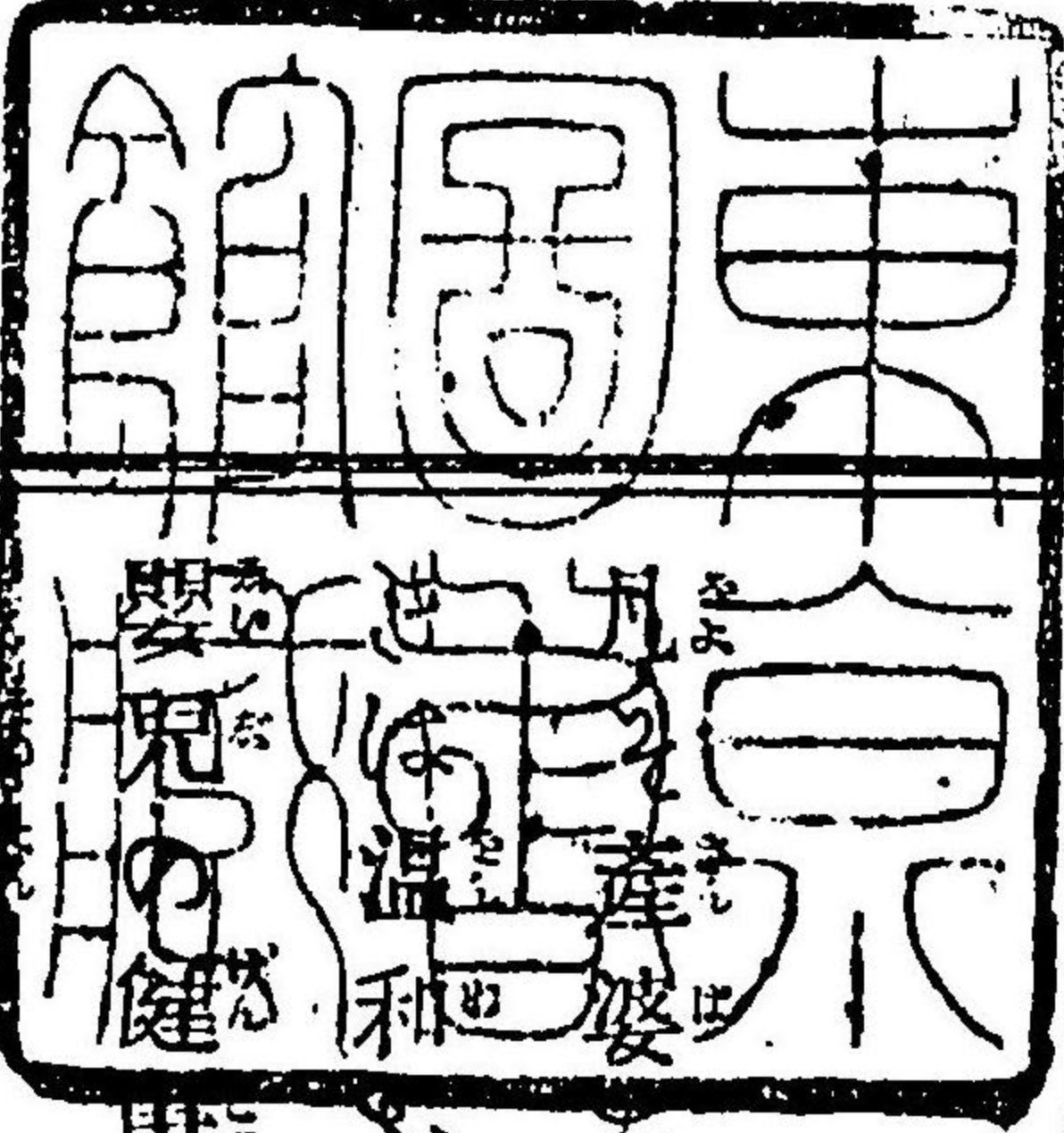
産婆楷梯問答

目次

- 産婆の心得
- 骨盤
- 婦人生殖器
- 妊娠の徴候
- 活胎及死胎の徴候
- 多胎の徴候
- 妊婦の攝生法

- 順産の論
- 分娩力の論
- 陣痛の論
- 順産處置の論

明治十八年一月十六日 内務省附付



産婆の心得

産婆たるものは温厚徳實にして同業者に會合するに
 目とし醫家の命令を尊守し常に妊婦産婦及び
 嬰兒の健康を保護して疾病を未發に防禦するものなり故
 に其任たるや重且大なり之に由て學術を研磨し其技藝を
 巧にせざる可からず今茲に産婆常に注意す可き諸件を列
 記するを以て宜しく之を胷裡に銘し苟くも忘却す可から
 ず
 第一産婆は常に健康を保ち如何なる時に於ても招きに応

せざらむこととを要す
 第二産婆は常に身体及び衣服を清潔にし手指に創傷と蒙らざ且つ爪甲の延長せざるよう注意す可し
 第三産婆は他家の招きに應し決して飲酒す可からず
 第四産婆初めて招待せらるゝときは可及的精密に之を診し鎖細の障害あるも直に醫家に診を乞はしむ可し
 第五産婆醫家に對するときは妊婦産婦及び嬰兒の醫家に緊要なる諸件を備とに陳告す可し

骨盤

問 骨盤は体中何れに位するや
 答 骨盤は軀幹と下肢の間に位する不正輪狀の骨輪にして上は腰椎に由りて脊椎と連り下は髌白關節に由りて下肢と連るものなり
 問 骨盤は幾骨よりなるや
 答 左右二個の無名骨薦骨及尾骶骨の四個よりなるものなり
 問 無名骨は元と幾骨よりなるや

答 幼年の時に於ては腸骨坐骨及耻骨の三個なるも可婚期に至れば化骨して一骨となるものなり

問 腸骨とは如何

答 骨盤の上側壁をなし下方より上方に至るに従ひて擴張し其全形恰も羽翼の如く(外面)は凹凸不平にして滑澤ならず(内面)は凹陷して滑澤なり之を腸骨窩と名け其后方に耳状の粗糙面ありて薦骨と相關節す而して之より前方に走る一線あり之を腸骨線と云ふ(上縁)は厚く之を腸骨櫛と名く(前縁)は上縁より短く且薄くし

て二個の突起あり其前上のもを前上棘状突起と云ひ其前下のもを前下棘状突起と云ふ(后縁)は短くして二個の突起あり其上部にあるを后上棘状突起と云ひ其下部にあるを后下棘状突起と云ふ此突起の下部に一の截痕あり之を坐骨截痕と云ふ

問 坐骨とは如何

答 坐骨は骨盤の後下部に位する者にして髌白の一部となす其強厚なる所を坐骨体と名く其部より後下方に至りて粗糙強大の結節即ち坐骨結節のある部分を坐骨

下行枝と名け之より前上方に斜行して耻骨の下行枝と連る間と坐骨上行枝と云ふ

耻骨とは如何

問 答

耻骨は骨盤の前部に位する三骨中最小なるものにして体部平行枝及下行枝の三部に區別す其体部は髌白の一部をなし平行枝は体部より前方に走るものにして其内上部に一線を有す之を耻骨線と云ふ此もの腸骨線と合して腸耻線となる下行枝は平行枝より下後方に走りて坐骨上行枝と連るものなり

問 答 薦骨とは如何

骨盤の後壁に位する三角楔状の骨にして其基底は上方に向ひて腰椎と關節し尖端は下方に向て尾骶骨と關節す内面は凹陥して四條の横線を現す之れ幼年のとき五個の骨より成るも可婚期に至て化骨して一骨となりたるの痕跡なり此線の兩側に各四個の孔あり之を前薦骨孔と云ふ(外面)は彎曲粗糙にまて兩側各四個の孔あり之を後薦骨孔と云ふ(側面)は粗糙なる耳状面ありて腸骨と相關節す

問 尾骶骨とは如何

答 尾骶骨は薦骨の下端に位する圓錐状の小骨にして之れ又幼年のときに於ては四個より成る其基底は薦骨の尖端に關節し其尖端は遊離するものなり

問 骨盤の結合とは如何

答 骨盤結合は各骨の間に軟骨を挿み種々の靱帯ありて之と結合するものにして其薦骨と腸骨との相會する所と腸薦骨結合と云ひ其兩耻骨の相會する所と耻骨結合と云ひ其薦骨と尾骶骨と相會する所と薦尾結合

と云ふ

問 骨盤を區別すれば如何

答 骨盤は腸耻線に由て之を區別すれば此線の上部和大骨盤と云ひ下部と小骨盤と云ふ而して此線の部と骨盤上口と云ひ兩坐骨結節の間耻骨縫合と尾骶骨尖端との間と骨盤下口と云ふ

問 男女骨盤の區別如何

答 女子骨盤は男子骨盤より前後の直徑廣大にして上下の直徑は却て短縮す又男子骨盤の耻骨弓は三角形を

なすも女子に於ては弓状となす之れ胎兒通過し安か
らしめんが爲なり

婦人生殖器

問 婦人生殖器と大別して如何

答 内生殖器外生殖器の二とす

問 内生殖器に屬する者は如何

答 子宮卵巢喇叭管腔之れなり

問 子宮とは如何

答 梨子の倒垂するが如き空洞体にして小骨盤の中央に

位し其上部の廣き所を子宮底とゆひ其下を子宮体と

ゆふ又子宮体の下部にして最狭き所を子宮頸とゆひ

其最下端即ち腔に連るの部を子宮腔部といふ而して

子宮底の兩側には喇叭管と通ざる孔あり之を喇叭管

孔とゆひ又腔部に開孔する所を子宮外口とゆふ

問 卵巢とは

答 左右二個の扁平なる卵圓形の小体にして子宮の兩側

及喇叭管の下方に位し内端は卵巢靱帯に由て子宮側

壁に附着し外端は喇叭管の剪縁に向ふ

問 喇叭管とは

答 左右二個の管にして子宮の左右兩側及卵巢の上方に位し内端は子宮底に開口して子宮腔と通し外端は放線状をなして遊離す之を剪線と云ふ

問 腔とは

答 腔は扁平なる筒状の管にして子宮の下部に位し下端は括約筋を有する腔孔に終り上端は子宮頸と親密に癒着し之より稍上方に向て陷凹する所あり之を腔穹隆と云ふ

問

外生殖器は何處にありて如何なる名稱あるや

答

會陰の前方兩股間に長と殆んど二寸許の陰門あり之と外生殖器と云ふ粘膜より成るものにして其陰門の外周圍を左右より相互に圍擁する唇状の隆起を大陰唇と云ひ又其大陰唇の内下方に於て前庭を左右より相互に圍擁する稍々小隆起を小陰唇と云ふ此兩陰唇間の上部に舌状の突起あり之を挺孔と云ひ其下方に存する額状のものを名けて前庭と名づく而して二個の孔あり其上にある小孔を尿口と名け下にある大

孔と腔孔と云ふ

問 卵巢は如何なる用をなすや

答 卵巢は二十八日毎に一卵を發育せしむる所なり

問 喇叭管は如何なる用をなすや

答 喇叭管は卵巢より脱出せる卵を剪採にて撮み之を子宮内に輸送する用をなし又時として精蟲を通過せしめ以て卵と會合せしむ

問 子宮は如何なる用をなすや

答 子宮は喇叭管より輸送する所の卵と男子の精蟲と會

合せしめ以て受胎するときは之を漸々發育せしめて胎兒となし分娩時に至りて子宮收縮して其胎兒を娩出せしむるの用をなすものなり

問 腔は如何なる用をなすや

答 腔とは平常にありては交接の用をなし分娩時には胎兒の産出する道路をなすものなり

問 外生殖器は如何なる用をなすや

答 外生殖器は凡て交接の用をなし又胎兒娩出路の一部をなす

問 月經とは如何

答 月經とは女子十四五歳に至れば生殖器發育全備し子宮内より血液の流出を始め次て二十八日毎に一回必ず流出し四十四五歳に至て終止するものなり

問 經血とは如何なるものなりや

答 經血は尿管破裂して流出する所の眞血液なるも其凝固せざるは腔の酸性粘液と混するか故なり

問 受胎するの理は如何

答 男女交接して受胎するや男子の陰莖より精液を女子

の腔内に射入するときは此精液中に存する精蟲子宮内若くは喇叭管内に於て成熟卵に會合し其精蟲卵珠中に進入し以て妊孕するときは子宮内に停留するものなり

問 妊娠の經過は幾日なるや

答 妊娠の經過は二百八十日即ち九ヶ月と四日乃至七日

間之なり

問 分娩時日を算するには如何なる法を用ふるや

答 妊娠后分娩の時日を知らんと欲せば先づ月經の停止

したる月より三ヶ月を除き其月の月経閉止したる日に七日を加ふへし例之は四月十日に月経閉止するときは四月より三ヶ月即ち四月三月二月を除き一月の十日に七日を加ふるときは則ち一月十七日となる之れ分娩の時日なり

胎兒各月の發育は如何

問 答

第一ヶ月に於て卵の發育するや初週に於て之れを監視すること難し二週に至れば始めて透明扁平なる微細の一小囊胞を現すと雖も未だ胎兒の形跡を認むる

能はば第三週に至れば既に胎兒發育の景況を現し一月の終りに至れば其景況を詳記するを得へし則ち此期に於ては卵の大さ畧鳩卵の如くに於て内に存する胎兒の身長三分三厘となり四肢の形ちを初めて發生す

第二ヶ月に於ては胎兒の發育最も盛なり此時に至りては卵の大さ畧鷄卵の如く内に存する胎兒の身長九分にして其重量一匁となり四肢の發生益々旺盛なり第三ヶ月に於ては卵の大さ畧雁卵大に至り胎兒の胎

長二寸七分其重量一匁二分五厘より五匁の差異あり
而して此期に至ては指趾に爪甲を生し外陰部の構造
始めて男女の別を示す

第四ヶ月に至れば胎児の身長四寸一分重量三十二匁
に至り己に男女の別著し

第五ヶ月に於ては胎児の長經七寸三分重量七十二匁
となり己に皮膚及ひ頭に毛を生し胎児自ら運動をな
すに至る

第六ヶ月に於ては胎児の全長九寸其重量百五十八匁

となり皮下蜂窩織中に脂肪の沈着を始む然れども未
た充分ならざるか故に皮膚に皺癢を生す此期に於て
胎児分娩するときは僅かに呼吸作用をなし少しく四
肢を運動す也雖も數分時にして斃る

第七ヶ月に於ては胎児の長經一尺五分其重量三百二
十匁となり上下の眼瞼を隔離し諸部の發育完全する
も皮膚赤色にして尙皺癢を生し渾身眞珠色の汚物を
以て被ふ之を胎児便と云ふ此期に於て四肢の運動前
月に比すれば稍力あり而して微弱の聲を發して泣啼

すれども一日の間に斃る

第八ヶ月に於ては胎児の長を一尺一寸三分重量四百二十匁となり眼瞼著しく開張し睪丸陰囊内に下り爪甲未だ指尖に達せず此際誕生するものは多くは死亡す第九ヶ月に於ては胎児の長を一尺二寸五分重量四百八十匁となり皮下脂肪の發育増息し皮膚皺襞を失して圓形となる此期に於て分娩したる嬰兒は養育の宜しきを得れば幸に生存す

第十ヶ月に於ては胎児の身長一尺三寸重量五百十匁

問

臍帯とは如何

となり此期に於ては既に全身の發育完備し頭髮黒色に變し爪甲畧硬くして延長し指尖を被ふに至り誕生するときは高聲を發して啼泣し四肢を運動するに活潑力あり稍時を経れば尿を利し黒色若くは帶褐綠色の便を排泄す

答

臍帯は二條の臍動脈と一條の臍靜脈よりなり羊膜の一部を以て被包せらるゝ索狀物にして其長を凡そ一尺七寸ありて左方に數回彎曲するものなり

問 臍帶の功用如何

答 臍帶は胎盤より血液を胎児に輸送し又胎児より胎盤に血液を逆流せしむる用をなすものなり

問 胎盤とは如何

答 胎盤は海綿状の圓き葉状物にして游离面は凸隆し深き溝に由て數小葉に區分せらる之を胎盤小葉と名く而して胎盤は胎児に存する二條の臍動脈の末端母体の子宮動脈間に籍入して網状をなすよりなるものにして多くは子宮の前壁若くは後壁に附着するものなり

り

問 胎盤は如何なる用をなすや

答 胎盤は胎児を己に榮養せし不潔の血液を母体の善良なる血液と交換を營む用をなすものなり

問 臍帶及胎盤は妊娠第幾日に由て發生するや

答 妊娠后大抵四十二日間を経て發生するもの也す而して胎盤血行は第二ヶ月の終り三ヶ月の始めに於て發生するものなり

問 卵膜とは如何

答

卵膜とは卵珠娠孕して子宮内に停留するときは之を
袍包する數膜よりなる所の一囊にして胎兒發育する
に従ひ子宮と共に漸々發育膨大す而して内に羊液を
充盈し以て胎兒を浮遊せしむ今其膜の外部より數ふ
れば左の如し

第一 外脫落膜

第二 内脫落膜

第三 外胚膜

第四 羊膜

以上記載せる諸膜は妊娠の末期に至れば密に相付着
して甚ち薄く分娩の時に於ては子宮口より突出破裂し
て羊液を流出し而して胎兒分娩すれば此膜胎盤と共に
娩出するものなり

問

羊液とは如何

答

羊液は白濁なる漿液にして其量一定ならずと雖妊娠
の終りに於ては平均百六十匁より三百二十匁の間に
あり

問

胎兒の血行とは

答

胎兒に要用なる動静脈は四條あり即ち臍動脈臍静脈
 心臓の卵圓孔ボタリー氏動脈管なり其臍動脈は中に
 不良の血液即ち静脈血を含み胎兒を己に榮養したる
 不良の血液を母体に輸送するものにして其中を流る
 血液は胎兒の臍帶内を経て胎盤に達するものなり
 臍静脈は中に動脈血を含み母体の新鮮なる血液を胎
 兒に送るものにして其中を流る血液は胎兒の肝臓
 に至り門脈及下大静脈に注ぎ夫より心臓の右上房に
 至り心の卵圓孔を経て心臓の左上房に至りボタリー

問

答

氏血管に由て大動脈に注入し以て身体諸部殊に胎兒
 の頭首に向て循行するものなり
 胎兒子宮内に於ての位置如何
 胎兒子宮内に於ては頤と膷上部に接して上肢と胸前
 側部に接し大腿と腹部に接し小腿と大腿に接し足背
 と小腿に接す而して頭蓋位置横位置尾骶位置の別あ
 り今其大畧を左に記す
 (甲)頭蓋位置は尤も多く十分中八分は此位置にして胎
 兒の頭蓋を下にして子宮口に向ふ其他此位置の變位

にして顔面を子宮口に向ふことあり之を顔面位置と云ふ

(乙)横位は胎児の中軸と子宮の中軸と互に交叉するものと云ふ其他此位置の變位にして斜に位することあり之を斜位置と云ふ

(丙)尾骶位置は胎児の尾骶部を子宮口に向ふものと云ふ其他此變位にして足部を子宮口に向ふことあり之を足位置と云ふ

妊娠の徴候

問 妊娠の徴候と大別すれば如何

答 不確實徴候及確實徴候の二とす

問 不確實徴候とは如何

答 不確實徴候とは獨り妊婦に來るのみならず他の病に於ても亦來ることあり例之は月經閉止頭痛眩暈下腹の膨滿食物の嫌忌嘔吐乳房の肥大乳輪黒色眼瞼周圍の暗色及び陰阜より臍部に達する一條の黒線を現はす等の如し

問 確實徴候とは如何

答 確實徵候は妊娠に於て必ず發する所の徵候にして母
 体の臍下の右側或は左側に於て耳を接するときは恰
 も懐中時計の音に類する音を聴取す之れ胎兒の心臓
 音にして其他母体の腹壁上に一手或は双手の掌面を
 帖し少しく按壓すれば胎兒の運動即ち胎動を感知す
 又時として妊婦自ら此胎動を覺ふることあり

活胎及死胎の徵候

問 活胎の徵候は如何
 答 活胎に於ては胎兒の心臓音を聽き胎動を自覺及他覺

するものどす然れども心臓音を聽さるを以て死胎と
 なすべからず

問 死胎の徵候如何

答 死胎に於ては胎兒の心音及胎動全く廢止し母体の下
 腹部弛緩し乳房も又萎縮を起す等にして其他時とし
 て子宮出血頭痛及甚しき嘔吐等を發することあり

多胎の徵候

問 多胎の徵候と大別すれば如何
 答 不確實及確實の二徵候とす

問 不確徵候は如何

答 腹部非常に膨満し且つ子宮部に縦形の溝を現し下肢の浮腫嘔吐等の通常妊娠より甚きものと云ふ

問 確實徵候とは如何

答 確實徵候にありては妊婦の腹壁の上下若くは左右兩點に於て胎動を触知し及胎兒の心臓音を聴取す且此心音搏數甲乙に於て差異あるときは益々多胎をると疑を容れず

妊婦の攝生法

問 妊婦攝生法とは如何

答 妊婦は他の健康体に比すれば僅の誘引にて諸般の疾病を發起するを以て妊娠中は殊更注意を加えて諸有害を避くべし

問 諸有害とは如何

答 身体衣服居室大氣等の不潔及ひ食物の注意精神の感動劇しき運動等之なり

問 身体の清潔法如何

答 身体は毎日或は隔日一回入浴し汚物を除去し浴后身

体を安静且つ温保すへし然れども高度の浴湯に沐浴するは却て害を誘起するものとす

衣服は如何

問

衣服は氣候に従ひて適宜にすへし即ち妊婦の腹壁は強く擴張するを以て衣服其体を離れ易し故に寒冷の時は常に下腹部及び下肢に適當の衣服即ち股引の如きものを以て之を被包し外寒を防ぐへし又下腹部を壓迫し且つ紐を以て之を強く絞窄するは嚴に之を避くべし

問

居室及び大氣の清潔法如何

答

居室は時々之を清潔になし大氣の流通を自由ならしめ毎朝一回必ず家外に遊歩し以て新鮮の大氣を呼吸すへし又衆人群集する所例之は劇場集會場に久居すへからず之れ此の如き所は大氣不潔なるのみならず身体強く壓抑せらるゝを以てなり

食物は如何

問

食物は其欲する所に任すへしと雖ども注意して膨満に至らしむへからず又妊娠の初期には嘔吐或は嘔氣

と起すものなり此際決して全く食物を絶つてからす
則ち一回少量にして且つ滋養多きものを撰ひて一日
數回與ふるを良とす其他妊婦は早天空腹のときに當
て嘔吐及び嘔氣を起す者多し然るときは臥床に於て
喫飯せしめ暫く安臥して后ち辱を離るゝときは嘔吐
鎮靜するものとし亦風氣を醸すへきもの及び不消化
物例之は豆類、牛蒡、餅、鹽藏魚類等の如きものは終始之
を避くべし

問 飲料は如何

答 飲料は凡て体熱を起すものを禁し毎朝一回牛乳若く
は冷水を一碗つゝ、飲用せしむべし然れども妊婦下痢
を發するときは之を止むべし其他濃厚なる茶を多量
に用ふるは大に害を招くを以て之を禁すべし

問 精神の感動は如何

答 喜怒哀樂及恐怖等凡て精神攪亂を持長する感動は之
を避くべし故に親屬及び産婆は務て之を防禦すべし
殊に産婆は分娩危險の履歴を談話して妊婦に恐怖を
抱かしむるを禁す又強健なる妊婦に於ては交接害な

しと雖も過度に交接するを禁すべし。

右に記載せし諸件の他妊婦に些少の事と雖も害を招くと認むるときは直に醫師に診察を乞ふべし例之は便秘寒胃嘔吐惡氣等を起すとき等の如し

問 運動は如何

新鮮なる大氣中に於て適宜の運動は妊婦に於て欠くべからざる故に毎日二回或は三回之を行はしむべし然れども過劇の運動假令ば高低多き路を長く歩行し或は車馬に乗じ長途を走らし或は度外に身体を屈伸

答

し或は腹部を押壓し或は跳躍する等の動作をなすときは必だ流産の恐あるを以て堅く之を禁まべし

順産の論

問 分娩とは如何

答 分娩とは胎兒母体を脱出するの期にして則ち妊娠終りの機轉なり而して分娩は妊娠中各期に於て之を發するものじす故に分娩の時期に由て今之を左に區別す

第一 流産は妊娠の第三ヶ月以内に分娩するものに

して胎兒未ち完全の發育をなとざるものなり
 第二 早産は妊娠第九ヶ月以内に分娩するものにして胎兒未ち完全の成熟を遂げざるも第八ヶ月より第九ヶ月に至るの間に分娩するものは生后其榮養宜しきを得るときは成長するものなり然れども第八ヶ月以内にて分娩するものは譬へ其榮養宜しきも生后内に於て死亡し分娩するときは之に死産の名稱を附するものとす

第三 正産は妊娠第十ヶ月即ち定期の時期に於て分娩するものにして胎兒は完全成熟を遂ぐるものなり然れども分娩時に於て母体或は胎兒に障害あるときは胎兒死亡に陥るとあり之を死産と云ふ

分婥力の論

問 分婥力とは如何

答 分婥力とは胎兒を体外に産出せしむる力にして之に

三種あり即ち子宮の収縮、腹壓及ひ膈収縮之れなり

問 子宮収縮とは如何

答 子宮の収縮するや其初め子宮口より漸々子宮底部に向て収縮す故に子宮は其縦徑短縮し之か爲に子宮口開大するものなり斯の如く子宮収縮するを以て上部則ち子宮底部より子宮口に向て胎兒を壓迫するものとす

問 腹壓とは如何

答 腹壓とは大便排泄時に於て努力するか如く深く呼吸をなし腹壁を緊壓するに由て發するものにして該力は子宮収縮を補助し以て分娩せしむるものなり

問 腔取縮とは如何

答 腔取縮力は頗る微弱にして分娩の際胎兒及后産を壓迫して之を産出せしむるものなり

陣痛の論

問 陣痛とは如何

答 陣痛とは分娩の際子宮収縮するに由て發する所の劇痛にして其痛たる薦骨部より腹部に波及す而して陣痛は其初め微弱にして漸々強劇となり次て再び漸次に輕解し遂に全く停止する所の間歇發作を有するも

のなり

問 陣痛は分娩の経過中同じきものなるや

答 陣痛は分娩の経過に於て三種に區別す則ち前陣痛一

名假陣痛眞陣痛及ひ后陣痛之れなり

問 假陣痛とは如何

答 假陣痛は間歇時長く發作時短きものにして其痛微弱

なり而して此假陣痛は只分娩を前知せしむるものな

り

問 眞陣痛とは如何

答 眞陣痛は其痛漸々強劇となり體骨部より大腿部に波及

し且つ發作時長く間歇時短きものなり而して此陣痛

の始めに於ては子宮口開大し次て羊膜破裂して羊液

を漏し遂に胎兒を分娩せしむるものとす

問 后陣痛とは如何

答 后陣痛とは分娩後暫時を経て再び發する所のものに

して此陣痛に由て卵膜胚盤及臍帶の一部を娩出せし

むるものなり

順産處置の論

問 産婆初めて産室に至るときは如何なる事と準備せよ
むるや

答 産婆産室に至るときは先づ臥床を設け而して後分娩
時及び分娩後に於て必用なるもの則ち晒、木綿、綿、飲用
水、麻、剪刀等と坐側に備へ置くべし其他温湯冷水石鹼
及び便器一水盥嬰兒の被服と次室に備へ置くべし
臥床は如何なる法に設くるや

答 臥床は先づ蒲團を置き其上に油紙或は水の滲透せざ
る物品を敷き産婦の己に被覆せる衣服と下半身則ち

腰部に至る迄翻轉せしめ而して産婦の頭部を高く凡
そ四幅の蒲團を六折になしたるものして其上に横臥
或は仰臥せしむべし又以上臥床の兩側を廣潤になすを
宜しとす之れ介者をして働作し易からしめんか爲な
り其他産婦の下肢を固定し亦上方より紐帶等を垂下
し之を産婦に握らしむべし然るときは陣痛に堪へ易
きものとす

問 産婆産室に至て如何なる處置を施すや
答 産婆産室に至るときは先づ産婦に就て陣痛及び体状

診し次て探宮術を施すことと産婦に告示して以て該術を行ふへし

問 探宮術とは如何

答

探宮術とは産婦を左側に臥せしめ其兩股を稍や腹壁に高擧し産婆は其後に坐して右手の示指及び中指に油類を塗り會陰に沿ふて陰門内に挿入し其初め後方より上方に向ひ次て上方即ち子宮口の周圍を探知すへし而して之を行ふに時期あり今其時期を左に記載す

第一 假陣痛時に於ては子宮口開閉せしや否や、子宮口に異常ありや否や、腔に腫物或は狹隘あるや否や、等を檢し次て骨盤の大小を探知すべし
骨盤の大小を測定するには先づ尾骶骨の尖端に示指を當て手背を耻骨縫合部に當て此部に爪痕を附し而して其手指を拔去し手指の尖端より爪痕に至るの間四寸を有するときは通常大の骨盤なりとす又坐骨結節より他側の同名部に至るの直径を量るに四寸あるときは之れ又通常の骨盤なり右に記載せし異常ある

ときは直に醫師を招くへし

第三 眞陣痛時に於ては胎兒の位置及び頭蓋の大小を探知すへし而して兒頭通常大にして頭蓋位置を取るものは自然の分娩力則ち産婆の力を以て處置するを得るも若し兒頭非常に大にして且横位或は斜位置を取るときは直ちに醫師を招待して之を委すへし

以上論述せし探宮術は陣痛の間歇時に施すと宜しす如何となれば陣痛發作間に於ては羊膜非常に緊張す

るを以て破碎し易し此の如く羊膜速に破碎するときは大害を來すを以て陣痛發作間に之を施すと禁忌するものなり

臨産時に於ての處置如何

問 答

産婦眞陣痛を發するに至らば先づ臥床に横臥せしめ産婆其后方に坐ふ膝蓋部を薦骨部に當て左手を腹壁に帖し右指を以て會陰部を固定し兒頭陰門に至るときは腹壓を少く減せしめ以て兒頭を徐々に娩出せしむべし之れ會陰裂創を防ぐか故なり而して胎兒全く

娩出するときは腹帯を以て腹部を強く縛り以て嬰兒の處置を行ふべし

問 嬰兒の處置は如何

答

胎兒分娩するときは先づ臍帯を嬰兒の体より二寸の所に於て麻を以て結紮し之より一寸を隔て、再び結紮を施し其中間部を切斷すへし而して適當なる温湯則ち手を臂まで挿入し其快きを度とし一手に嬰兒を載せ以て入浴せしめ兩手に柔軟なる布片を取り全身に附着せる血液及び粘稠物を除去すべし若し之を除

去しかたきときは卵黄を塗布し後洗除すへし以て嬰兒を膝上に載せ温暖なる布片を以て其身体を拭ひ諸部殊に陰部肛門及び口唇等に異常なきやを検査し若し異常あるときは産婦に之を告げざして密に親屬に告諭し以て醫家の所置を乞はしむへし而して尙殘留したる臍帯は晒布片にて被包し之を腹壁の右上方に緩く翻轉し紐にて稍強く紮定し衣服を着せしめ安靜なる所に臥せしむへし而れども胎兒分娩后直に啼泣せざるときは産婆先づ示指に布片を纏ひ嬰兒の口内

に挿入し粘稠物を除去し次て嬰兒の口腔に接して強く呼氣をなし以て空氣を通せしむるときは發聲するものどす然れども尙發聲せざるときは嬰兒を入浴せしめ布片を冷水に浸し輕々胃部を摩擦して發聲せしめ後ち前條の如く處置を施すべし

問

答

分娩後産褥婦は如何なる處置をなすや
分娩後先つ右手を以て産婦の腹上より子宮部を按摩し以て娩隨則ち胎盤卵膜及ひ臍帶の一部等の排泄を促し己に腔内に下降するときは左手を以て臍帶を握

り右手の示指及ひ中指を臍帶に沿て腔内に進め臍帶の附着部に達するときは其部を握り下方に牽引すへし然るときは娩隨容易く腔内に脱出するものどす而して子宮出血の有無を診し出血なきときは微温湯を以て陰部及ひ其近傍を注意して洗滌し又會陰損傷の有無を檢し後ち産褥の汚穢したる油紙及ひ上敷の類を徐々に取去し分娩前に於て自己の衣服を上半身に翻轉せしと舊位に復し安靜に臥さしめ尙二三時間産褥婦の傍に止り子宮出血の有無及ひ子宮の能く収縮

するや否やに注目し若し出血甚しき惡徵あるときは之を防禦すべし

問 子宮出血の處置如何

答 若し子宮出血するときは直ちに醫家を招待し治を乞

はしむへし然れども産婆は醫師の未だ來診せざる間に於て預め之を防禦せざる可からず則ち産婦の身体を安靜になさしめ手巾に冷水を浸して之を子宮部に帖して按壓を施し以て子宮収縮を促すへし次で腔内より冷水を注射して醫師の來診を待へし

問 産褥婦の攝生法は如何

答 産褥婦に於ては妊娠攝生法の如くにして今其異なる

事件を左に記載す宜しく之を守らしむべし

第一 産褥に於ては八日乃至十四日間安靜に仰臥或

は側臥せしめ精神の感動を防かん爲め八日間余人の

來訪を禁すへし

第二 陰部は毎日一回或は二回微温湯を以て洗滌し

汚穢したる蓐布は時々交換して清潔ならむことを要

す

第三 産後大小便の通利を忽にすへからず故に第三日に於て尙未を大小便通利せざる時は醫家に診を乞はしむへし

第四 食時は分娩後三四日間淡薄にして消化を易きもの例之は米粥百合根芋及び脂肪少なき魚類等を食せしめ第八日より通常健康者の食物を喫せしむへし

問

初生兒の攝生法は如何

答

初生兒の攝生は左に記する諸件に従ふへし

第一 初生兒の衣服は可及的緩大且つ柔軟にして壓

迫を避け呼吸を容易くなとしめむこととを要す又臥辱の類は温暖且つ清潔に保持すべし

第二 嬰兒の入浴は毎朝一回之を行ひて身体殊に臍帶付着部を清潔になし且つ毎浴布片を冷水に浸し口内及び顔面を拭滌すべし

第三 嬰兒は哺乳を求むるか或は身体に障害あるにあらざれば啼泣せざるものなり然るに非常に啼泣するときは先づ哺乳せしめ啼泣尙止まざる時は衣服に針或は毒虫の付着せざるやに注目し若し之れなき

ときは直に醫師の診察を乞はしむべし
 第四 分娩後初生児には砂糖湯或は藥汁を與へ産母
 の乳汁分泌するに至れば之を哺乳せしむへし然ども
 初生兒薄弱なるときは直に他の乳汁を與へ又た産母
 疾病事故ありて乳汁の分泌せざるか或は不足するど
 きは乳母を傭ひ以て哺乳せしめざる可からず若し事
 故ありて乳母を傭ふとど克はざるときは左の法に由
 り牛乳を與ふ可し
 初年より第八日に至るの間は牛乳一分温湯三分砂糖

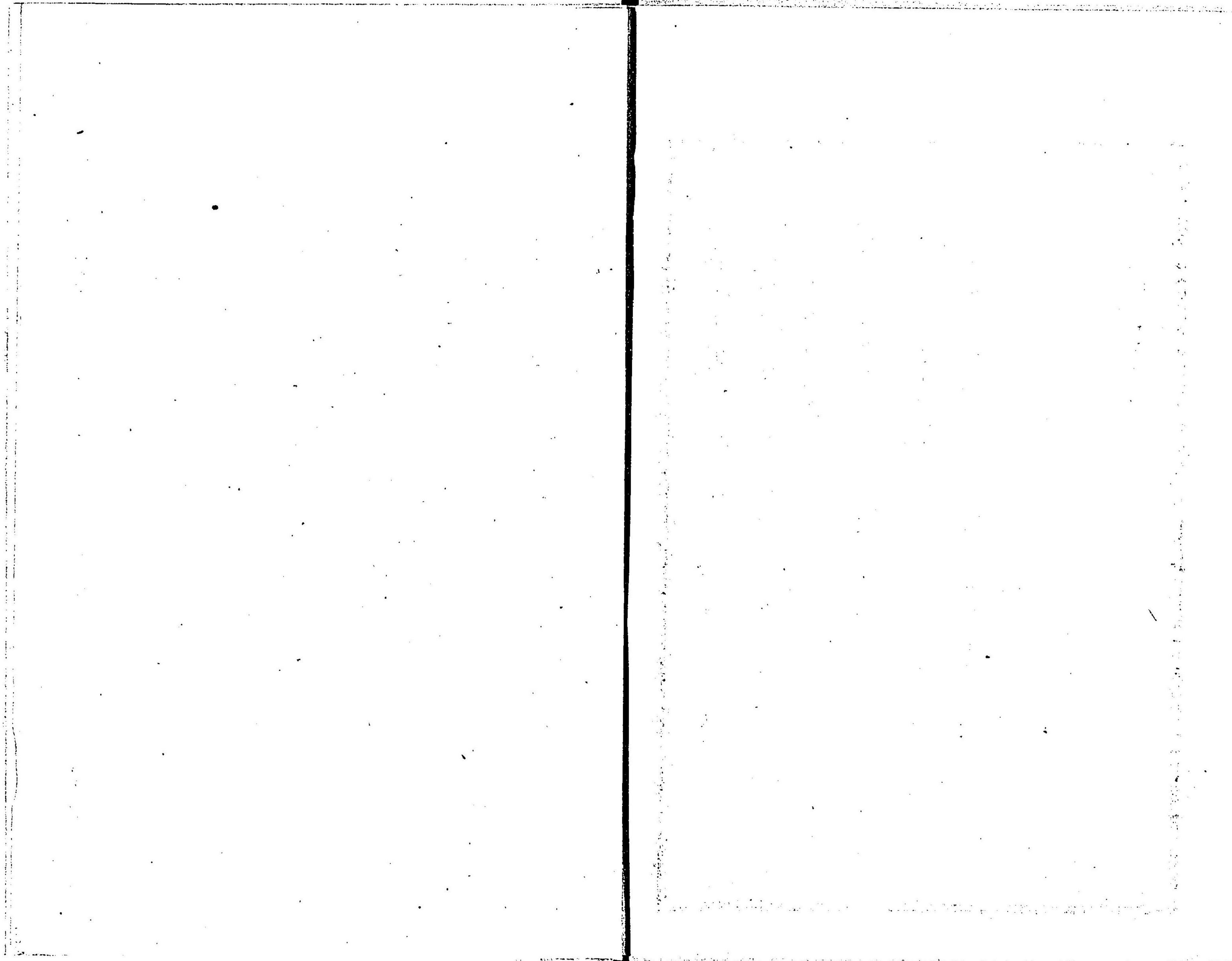
及食鹽少許

第八日より第二ヶ月に至るの間は牛乳一分温湯二分
 砂糖及食鹽少許

第二ヶ月より第五ヶ月に至るの間は牛乳及ひ温湯各
 等分砂糖食鹽少許

第五ヶ月の終りに至れば純牛乳を與ふべし

産婆楷梯問答終



正誤

十三丁目ノ九行ノ尿口ハ尿口ハユウシツノ誤リ
 十四丁目ノ五行ノ剪採ハ剪採センサイノ誤リ
 廿三丁目ノ四行ノ尿チ利ハ尿チ利ハユウチリノ誤リ
 廿四丁目ノ八行ノ網狀ハ網狀モウジキョウノ誤リ
 卅九丁目ノ三行ノ膿厚ハ膿厚ノウコウノ誤リ
 四十七丁目ノ七行ノ胚盤ハ胎盤タイバンノ誤リ
 四十九丁目ノ五行ノ紵帶ハ紵帶オウタイノ誤リ

明治十八年五月廿三日出版届
 同年 同 月 日 刻 成

編輯兼出版人

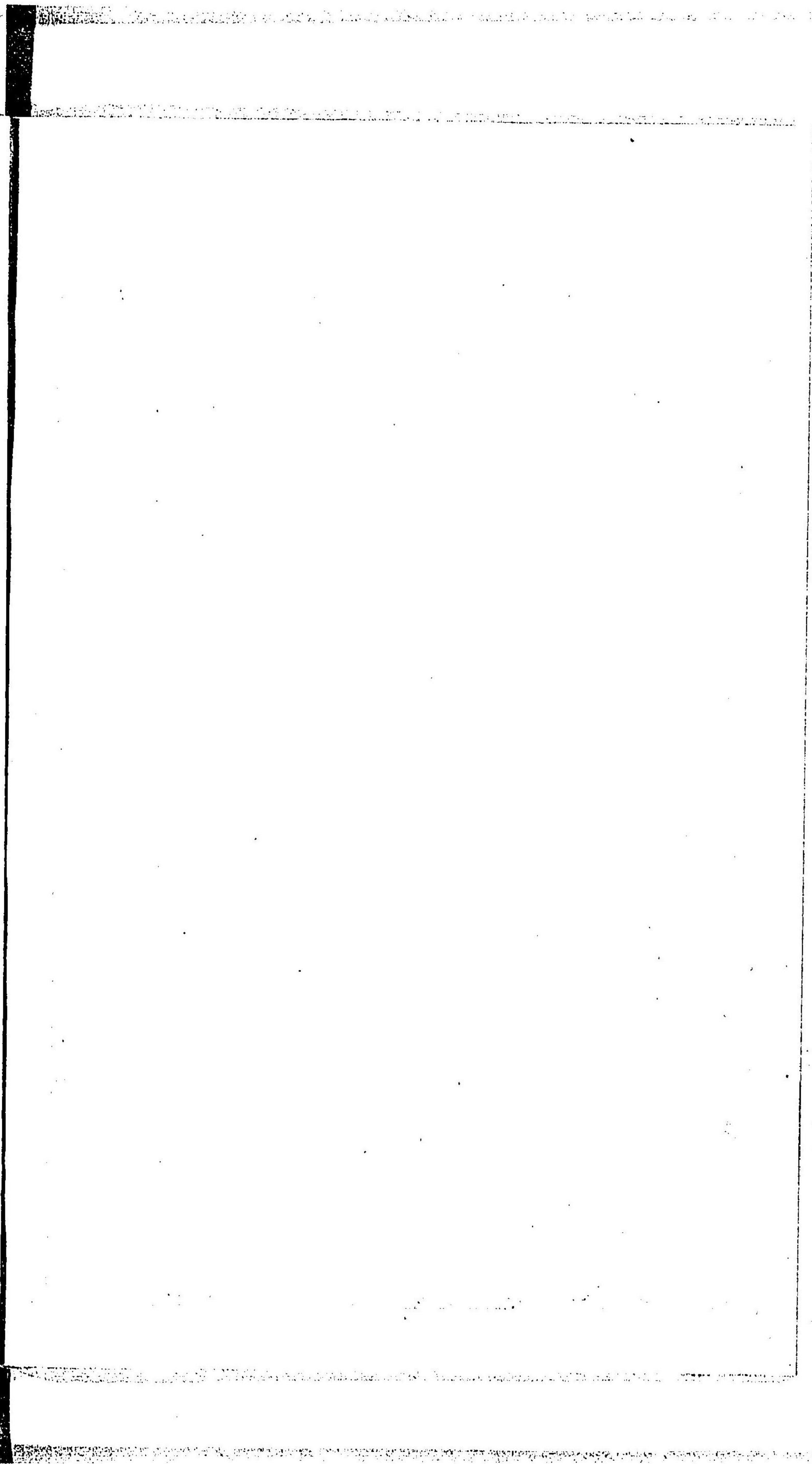
山内 養順

三重縣伊勢國安濃郡
 津立町十六番邸

編輯兼出版人

山内庫之丞

三重縣伊勢國安濃郡
 津立町十六番邸



ex 4/9



059861-000-4

特29-919

產婆楷梯問答

山内 養順

山内 庫之丞 / 著

M18

CBI-0106



牛